

函 番 號	上 / 號
種 別	國語
種 番 號	512 號
月 日 入	月 日

紫式部日記傍註

下

915.3
416
Val 21

傳付隨舞姬
房也詳見後補

樋澄付隨舞姬
下女也詳見後補

妻春宮亮とい
藤原宣孝の男
隆任あり是紫
式部のあり継
子あり

ひさおのりてしりしひひ。脂燭
尋 幌引覆
 へいゆんひさおひあふとまねれとおほさのくささ
 おあしそそんてんとおひささし。唐衣
高階崇遠 朝臣 傳注
 うらなりと成のあそんけうばとあはれなりしあ
 ちこのよふもものおもえれを免つしうさゆ。さぬ
身 動 窈窕
 うらみしりさもさあつとあつとそそんてんてん
 人あらしふりてしりしひひ。今上
 いらんとあもとのひささやうさよりさうさうせ
外 遣
 ひさあゆせさうさうさうさうさうさうさうさう
調麗
 ひさくとのひささひささひささひささひささひささ
兼隆卿
 おしりともしりあうら。右宰相中將乃あつさかきり

ちかしり。樋澄 注上
 ささひさりと人ほとむひなりし。そそ不友宰相乃
今句
 おひあし。今句
 わり。又ひささのすあらしして。不友宰相乃
箱 擗 顔
 けりとも。あさうらわし。ねんあさゆともうらへん
實日卯月 火影 青
 こゆあうて。ほうをり。あつさうさうさうさうさう
 殿上人なりつ。のりしなれと月しあふさしひささ
 あやうらうらなれめつし。とさうさうさうさうさう
注上
 ちかしり。衣もあつさうさうさうさうさうさうさう
 あたさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
尾張
 けり。たさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
御前

海々のれ。さうくもりなりさ。ひらけ...
 くらく...
 くらふ。ちてもめりぬ。と身乃やと心からあふひあふ。
 人よおと...
 あひま...
 け...
 くらに。若宰相の...
 う...
 見...
 兼隆卿
 中物ハワ...
 柏
 おと免...

と...
 心ある...
 くら...
 う...
 見...
 後の...
 あ...
 くら...

孫仁内裏式曰
 中務省率侍從
 内舍人大舍等
 各持桃弓葦矢
 臨陽登陸陽師
 齊即執祭具方
 相一人著假面
 黃金四目其衣
 朱色裳右執戈
 左執楯振子其
 人同著絨布衣
 朱袂額共入殿
 庭列立云

八程いとまきとひ異とかりきり。あつともあつともいまは社か
 ちののたあもいとたら履の志きううま。あめー
 くのひわらうとさうして

中一たてり世まきむののよひのうららぶよのうららぶ
 とまひりこさけり。つこりれたつあひいこくく
 ぬれは。とくあめつきふとくぬは。はくろひひひすうてうら

ちげあつるに。舟乃心信そよめかたうしてゆへり。
 内匠
 たくとれくう人かあきれあもあめてあてうらぬりの
 かたね。ゆひり捨と教はくくともあつるに。おまら

つふいこくくのうらりともあつるに。おまら
 人のあたきくともあつるに。おまら注 驗と思 敷くわとえいと
 ひとわりのとふはあはは。あく内 匠は君のさくとう紀よ

とくくともあつるに。おまら
 とくともあつるに。おまら
 とくともあつるに。おまら

とくともあつるに。おまら
 とくともあつるに。おまら
 とくともあつるに。おまら

とくともあつるに。おまら
 とくともあつるに。おまら
 とくともあつるに。おまら

とくともあつるに。おまら
 とくともあつるに。おまら
 とくともあつるに。おまら

一、美、敷 一、籠 一、腹 一、黒
 一、影 一、護 一、注卷ノ兼東上
 一、長 一、立

一、最 一、脗 一、様 一、變 一、敬 一、額

わーうゆりうふとと。いあもりてうく。うまハ
 塙塙あうううなうとのきらめそ。ふれはふとてうう。
 左衛門左衛門さき色のあうーとりの人ゆり。あやうもまうう
 ばかりひううしえーとゆりぬらうとあうううおれお
 後後一條帝一條帝うういふ源氏のものかうう人ふ
 ちまセゆつてすーめーうふ。この人、日本紀とて
 しまゆへれゆしふさえあうーとのゆりやまゆり
 かとてうううういみーうあじさえうあう。あう人あ
 ーひらうーあ。日本紀のううひとてうまゆ。
 ちてううそゆり。あめあうゆれ女うまうううう
 凡凡式部式部父父鳥時鳥時フネ
 ゆりあてううあてさえゆううてゆり人よ。この式部式部也

とりの人乃。うううう。史記とりのあまゆりてう
 あうひつがの人のうううううう。自身自身カカ躰躰フネ
 式部式部父父鳥時鳥時フネ
 う。あの子子にうううううう。あういあうりまゆとう。
 手筒手筒フ録フ録あけれゆ。うまゆれとさうまゆうううあ
 人。いふそやうあうあう。あうものゆあう。あうう人
 のうあまゆとあてのらうらうう。あうううううう
 手筒手筒ゆりまゆとてうううあまゆうくゆり。あうあういひ
 きん物きん物あもあうめとなうてゆりあううくかうう事
 屏風屏風紙紙あゆりううう人うううう。あうひらんとてう
 うあ。いひうゆのううあううううう。あうあうあう

つげゆるめり。たもあしむせまじつと身のうの
うれよても。のこつと因えせよ。海はうはせり。
きしめり。人よひらこえすすとも。かかると。やの
ゆる。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
成はらせ。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
うも。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
い。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
や。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
あ。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
ゆる。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
は。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。

或僧正師云
寶篋印陀羅
心經曰凡有衆
人或作塔形
或罪障悉滅
所之如意云

ホとそゆるん。それハがふるはらん。しりく。あまのし。
く。かくせり。人よひらこえすすとも。かかると。やの
あ。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
このう。人よひらこえすすとも。かかると。やの
と。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
う。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
ま。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
す。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
説。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。
ら。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。あまのし。

のりすきり。たまの物——うらな海らひつくせん。
 形。すのこに小むきに。かへん^上にてうらな先。
 内^殿 公李公
 ちうられおほいとのまゝな大夫。河原大細言をねらうとも
 へ。えんゆきうりた。はあそひあり。殿上人のあのを^對
 へりふあうりうらうらにうめぬ。比下はさまねり。
 うけまのあそん。こまうやのあそん。ゆきうり。
 あとやうの人く。うらよ河原大細言。うらうら。比并。
 琵琶 箏
 ひこ。こはちの宰相。中将^笙のあえとそ。やうてうの
 安名尊
 一とて。あかきうらと。つさふひ。ちのあがと。うら。
 二イ
 うくの物。鳥^破急
 外座
 かととゆく。弁に。うらうら。比。うら。くさめ。うら。伊勢
 子

海。右のねと。大臣^和琴。いとねり。あ。か。な。と。うら。や。ひ。
 雜禮
 うら。ゆ。め。り。う。ら。う。ら。に。い。み。う。ら。あ。ま。ら。れ。や。ひ。
 寒
 一と。うら。人の。身。う。ひ。え。ゆ。う。ら。う。ら。の。あ。え。二。あ。
 一。う。ら。う。ら。あ。と。そ。え。侍。一。

實元寺

實元寺十一月廿八日敷儀鼓一糸

後附

寬弘七年十一月廿八日遷新造一条院 中宮同行啓

寬弘七年

左大臣藤道一 右大臣藤顯光 內大臣藤公季 左大將

大納言藤道綱 傳 藤實資 右大將 按察使 權大納言藤齊信 中宮

同 藤公任 皇太后宮大夫

權中納言源俊賢 治部卿中宮權大夫 十二月十七日正二位 中納言藤隆家

權中納言藤行成 皇太后宮權大夫 侍從 同 藤賴通 左衛門督 春宮權大夫

中納言藤時光 彈正尹 權中納言藤忠輔 兵部卿

參議藤有國 勅解由長官 三月十六日修理大夫 同 藤懷平 右衛門督 春官大夫

同 藤兼隆 右中將 同 藤正光 大藏卿

同 源經房 左中將 同 藤實成 左兵衛督

同 源賴定

左中將藤公信 藏人從四位上 內藏頭 藤教通 從四位上 十一月廿八日從 中將加

少將藤濟政 十一月廿五日 右中將 藤兼綱 從四位下

藤忠經 藏人正五位下
正月七日從四位下

藤定賴 二月十六日元右
十二月七日正四位下

源朝任 藏人從五位下
十月十五日轉任元右

右中將藤兼隆

藤賴宗 十一月廿八日
正四位下

源濟政 十月廿五日任

少將源雅通 二月廿日兼
木工頭

藤道雅 從四位下

藤好親 正月七日從五位上
左兵衛佐

藤定賴 從四位下

源朝任 二月十六日任元少納言
任右

藤經親 二月廿五日任
元左衛門佐

蓋聞斯書紫式部之所記也式部寬弘

三年之臘始官仕中宮 後號上東
門院是也 若

其博覽俊才則因世所徧知也其官仕

之間見聞所及進退所經聊注錄以成

一書其雅趣藻詞實與源語相為伯仲

然此書本非日次之體而呼之日記者

未審姑且依舊題不輒改之其間難解

者畧標二傍注以便看讀門人谷村 光義

更撮取言五節舞姬之事者以附後而
與本書相發遂附之剗闕以與于門下
之士云

其享保己酉年黃鐘中澣壺井安鶴翁

蓋聞洪書著本特之心...

後補

○大嘗會本朝月令五節舞者淨御原天皇之所
制也相傳曰天皇御吉野宮日暮彈琴有興俄
爾之間前岫之下雲氣忽起疑如高唐神女鬢
髻應曲而舞獨入天瞻他人无見舉袖五變故
謂之五節其歌曰乎度綿度茂邑度綿左備須
茂可良多万乎多茂度邇麻岐底乎度綿左備
須茂光義按更
有本據在

○續日本紀聖武天皇天平十四年春正月丁未
朔壬戌十七天皇御大安殿宴群臣酒酣奏五節田

舞訖更令少年童女踏歌○同十五年五月癸

卯宴群臣於内裏皇太子親舞五節云

類聚國史嵯峨天皇弘仁五年十一月壬辰宴

侍臣奏五節儂賜祿有差

○本朝文粹善相公清行十二箇條五節舞妓臣伏見

朝家五節舞妓者太嘗會時五人即皆預叙位

其後年年新嘗會時四人無預叙位之例由是

至于太嘗會之時權貴之家競進其女以死此

妓尋常之年人皆辭遁可闕神事爰有新制令

諸公卿及女御輪轉進之伏案故實弘仁承和

二代尤好内寵故遍令諸家擇進此妓即以爲

選納之便也諸家僥倖天恩不顧糜費盡財破

產競以貢進略

○雲圖抄裏書五節廿日舞姬等參入裝束畢後

預藏人觸其由於貫首大歌參畢藏人頭奏聞

或令藏人奏次御出以下前行乘脂入大師局殿

同人給他公卿併伺焉隨所次舞姬等參

入必無次第凡帳各以具之薰爐持隨髮上

之時撤預藏人每度撥起束帶次大歌發歌

笛小歌和次舞畢退下六位次還御○寅日殿上

淵醉朗詠今樣三獻畢有亂舞不事同夜御前

試預藏人奉仕御裝束預藏人尅限大師參上催之

次舞姬依次參上或無不藏人頭於南殿西腋

戶下不察陪從關人免人者髮上一人取几童

二人持薰籠言餘不參次殿上戶右青璣門閉

之不開次主哭言人自北廊列立庭中舉炬火

次大歌參上者座次發歌笛次舞畢內侍宜可

返御歌之由次藏人頭問大歌人御物忌之時

誰御所本宮大夫若親○叩日宴飲如昨日童御覽奉仕御裝束后

眠公卿宮司奉仕之次御座定公卿候簀子敷

或賜圓座但次童女參御前雲客副之或召次

下仕參藏人副之各一所事畢次第退入夜行

幸中院其儀○辰日節會次第畢及三獻大歌

發歌笛先是舞姬參上候御後下小忌大盤之

後舞姬參上髮上闌於第三間列舞主殿女孀

四人秉燭照舞畢舞姬退下歌人退下次入御

○類聚雜要抄舞姬裝束○世日赤色唐衣一領

織物褂一領茜染打褂一領織地摺裳一腰茜

染三重袴一腰扇一枚鞋一足○寅日青色唐

衣加襦蘓芳未濃裳一腰茜染打褂一重同三

重袴秘傳一腰扇一枚錦鞋一足。○辰日 日蔭鬘赤

紐青摺唐衣一領泥繪裳一腰茜染打袴一重

同三重袴一腰扇一枚錦鞋一足。○傳唐衣裳

○童汗衫カザミ柏單表袴下袴扇差櫛物忌紅薄○

下仕ツギ褂打衣單唐衣裳袴○樋洗スミレ上雜仕等裝

束略之

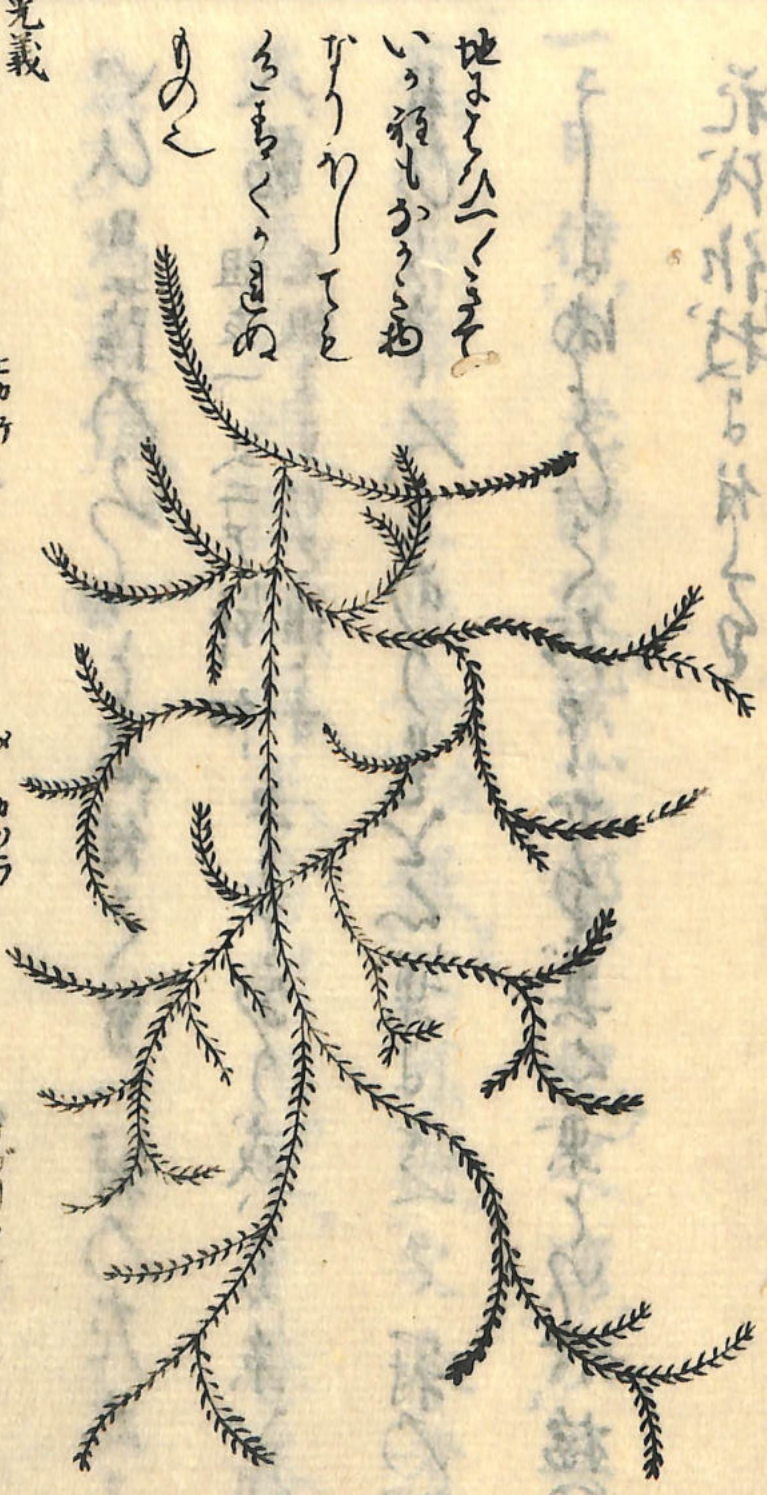
○神代卷段 磐戸猿女君遠祖天鈿女命以天香山

之真坂樹為鬘以蘿蘿此 疑云為手強節略

○延喜四時祭式供新 嘗料日陰二荷略節

○和名抄苔類蘿唐韻云日本紀私記 蘿比加介

水乃花乃花乃花



地よとくくく
いっ種もか
かうり
もま
めく

光義
按日蔭も蘿ヒカテ又ハ女蘿メ カツラ或ハ下苔シカクコケと云り

俗名ハ狐乃と云ふといふなり則我雄徳山あり

多くつり懸て北山乃道湿地よ生と云れりこの

日づけ代神代よハ^{タスキ}湯よ用ひ^スき^ルり^マり^シり
 延喜式よ日^ノ蔭^ニ行^トあ^ハる^ハ是^ノり^ハ世^ノ後^ニ世^ノよ^ハて
 白糸^トり^テ合^スる^ハあ^ハま^ハれ^ルよ^クみ^スる^ハあ^ハる^ハひ^ノ結^ト
 い^ハ日^ノ蔭^乃ろ^ろと名^付く^男ハ^冠乃^たた^り
 八筋 組立一丈二尺計細
凡組よ^ハひ^ノ組^トす ^そろ^ろり^或ハ^糸系^ト組^ク
 用^ひる^人も^あり^是と^ハ葉^よと^ク冠^乃か^ん
 う^よは^ゆと^ひと^くち^ろり^り其^ハ葉^とり^ハ梅^ノ結^ト
 花^代枝^枝よ^付る^也

一日侍干老師^下投紫式部^下日記之席^ニ以^テ其中
 有^ク五^ノ節^ノ舞^ノ姫^ノ之^ノ事^命 余 録^ス其^レ可^キ與^ル之^ノ参^ル考^ス者^ヲ
 故^ニ嘗^ニ膳^ニ寫^シ所^ヲ聞^ク就^テ而^テ正^ス焉^則附^ス之^ヲ干^ノ卷^末矣
 最^ニ不堪^ニ報^ス愧^云 云 爾

享保十四己酉年臘月下弦
 石清水社士
 谷村光義



享尉十四日酉年臘月二十日

谷村美清



東都書林

...

...

...

...

東都書林

京橋南傳馬所一丁目

近江屋吉川半七

小石川傳通院前

鴈金屋青山清吉

本郷春木所三丁目

同支店

